

## 「(10～15年後を見通した)高等教育の将来についての議論」について

## ～The Debate on the Future of Higher Education～

この度、ジョン・デナム・イノベーション・高等教育・職業技能省(DIUS)閣内大臣が進めている、10～15年後を見通した高等教育の将来のための政策的枠組み(Policy Framework)の策定の一環として、08年10月に公表予定とされていたテーマ毎の有識者の意見が公表された。同時に、公表された意見に対する意見を、広く様々な方法を通じて一般及び有識者に募っており、議論の広がりを促している。

なお、デナム大臣は、08年2月の講演で、09年度に予定されている授業料制度の評価(Review)の前に、高等教育の将来像について議論しておきたいとしている。

**1. 公表された有識者からの意見**

下表の有識者からの意見が、DIUSのサイト(下記出典参照)上で公表されている。

**■大臣の求めに応じて意見提出されたテーマと有識者(Contributors)**

No.	テーマ	有識者
1	高等教育における国際の課題 International Issues in Higher Education	Prof Drummond Bone リバプール大学学長 (Vice-Chancellor)
2	学官による政策策定 Academia and Public Policy Making	科学技術会議(Council for Science and Technology)
3	高等教育機関のパフォーマンスの把握 Understanding HE institutional performance	イングランド高等教育財政会議(HEFCE)
4	高等教育におけるパートタイム履修 Part-time studies and Higher Education	Prof Christine King スタッフォードシャー大学学長 (Vice-Chancellor and Chief Executive)
5	教育と学生の経験 Teaching and the student experience	Prof Paul Ramsden 高等教育アカデミー (HEA)事務総長(Chief Executive)
6	研究キャリア Research careers	Prof Nigel Thrift ウォリック大学学長 (Vice-Chancellor)
7	大学が直面している人口動態的課題 Demographic challenge facing our universities	英国大学協会(UUK)
8	知的財産と研究利益 Intellectual property and research benefits	Professor Paul Wellings ランカスター大学学長 (Vice-Chancellor)
9	Eラーニングにおける世界的リーダー World leader in e-learning	Sir Ron Cooke 元共同情報システム委員会議 長(Chair of the Joint Information Systems Committee)

(出典) [DIUS] The Debate on the Future of Higher Education

<http://www.dius.gov.uk/policy/HE-debate.html>

## 2. 次のステップ

上記公表意見に関し、ユーザー側有識者に意見を求めているほか、インターネット上のブログ用のサイトを立ち上げて、広く一般の個人及び組織から意見を求めている。また、学生からの意見も集めており、政府が学生と直接対話するために、08年2月に設置した全国学生フォーラム(NSF)からの意見も求めている。

### (1) ユーザー側有識者からの意見

■大臣から意見を求められている分野とユーザー側有識者(Representatives of the Users of HE)

No.	分野	ユーザー側有識者
1	高等教育に関する出版経験	Dame Marjorie Scardino 英国ビジネス会議(the Prime Minister's Business Council of Britain)メンバー、Pearson 事務総長(Chief Executive)
2	芸術と文化	Nick Hytner 国立劇場館長(Director of the National Theatre)
3	研究と技術移転	Sir John Chisholm Qinetiq 社会長、医学研究会議(MRC)会長
4	産業界	John Griffith-Jones KPMG 共同会長(Joint chairman and UK senior partner)
5	公的部門	Tom Russell ロンドン開発局オリンピック・レガシー部門長(Head of the London Development Authority's Olympic Legacy Directorate)
6	クリエイティブ産業の小規模ビジネス	Anthony Lilley Magic Lantern 社
7	海外	Dr T Ramasami インド科学技術大臣(Secretary to the Indian Department for Science and Technology)

(出典) [DIUS] Commissioning letters and guiding principles for users contributing to the Higher Education Debate

[http://www.dius.gov.uk/policy/users\\_perspective.html](http://www.dius.gov.uk/policy/users_perspective.html)

### (2) 一般の個人及び組織から意見

下記ブログ・サイト上で、広く一般の個人及び組織から意見を募っている。

<http://hedebate.jiscinvolve.org/>

### (3) 学生からの意見(全国学生フォーラムも含む)

全国学生フォーラムとも連携しつつ、学生からの意見も求めている。

全国学生フォーラム(NSF: National Student Forum)

<http://www.dius.gov.uk/policy/nsf/index.html>

・イングランドの高等教育について広く学生にアクセスするために、08年2月に政府によって設置された。

- ・全国学生フォーラムを通じて、政府及びその他の政策策定機関は、幅広い学生に対して直接アクセスすることができ、逆に学生の声を国の政策策定レベルで聞くことができる。
- ・毎年、主要な提言をまとめた年次報告を政府へ提出し、政府からそれに対する回答を受ける。
- ・様々な経歴の学生等 18 名のメンバーで構成。

<http://www.dius.gov.uk/policy/nsf/who.html>

### 3. デナム大臣の構想の概要 (08年2月29日講演の概要)

- 世界は急速に発展しており、英国の英知を解放し、これまで以上にイノベーションを通じて経済成長を支援することができなければならない。
- 将来の世界水準の高等教育制度はいかにあるべきか、何を求めるべきか、現在発展の障害となっているものは何かを特定する必要がある。
- 09年度に予定されている授業料制度の評価(Review)の前に、高等教育の将来像について議論しておきたい。
- この作業の過程の一部として、多くの個人及び機関に議論へ参加してもらいたい。それは、政府の政策を策定するのではなく政府が知るための手助けであり、また同等に重要なこととして、高等教育界の中での議論を活発にするためでもある。
- 政策的枠組みは以下の機能を有することを期待する。
  - ①英国の高等教育が、21世紀における研究、教育、国際協力、経済発展、文化的影響への増大する需要に応えることができるようにする。
  - ②将来の政策決定(公的資金助成及びその他の優先事項の決定等)の参考となる観点を提供する。
  - ③客観的かつ透明性のある方法で進展を測定することを可能にする。

### 4. 経緯

[http://www.dius.gov.uk/policy/he\\_background.html](http://www.dius.gov.uk/policy/he_background.html)

#### 08年2月29日 デナム大臣の講演 (ウェルカム・コレクション)

[http://www.dius.gov.uk/speeches/denham\\_hespeech\\_290208.html](http://www.dius.gov.uk/speeches/denham_hespeech_290208.html)

- デナム大臣は、10～15年後を見通した高等教育の将来のための政策的枠組み(Policy Framework)を策定したい旨発表した。
- その政策的枠組み策定に向けた議論のために、高等教育に関する様々な課題について、有識者へ意見を求め、その結果が08年10月を目途に公表されることとされた。

#### 08年9月11日 デナム大臣の講演 (英国大学協会(UUK)年次総会)

[http://www.dius.gov.uk/speeches/denham\\_uuk\\_110908.html](http://www.dius.gov.uk/speeches/denham_uuk_110908.html)

- デナム大臣は、政策的枠組み策定における次のステップの概要を提示した。
  - (1) ユーザーの視点(産業界、学生等)
    - ・関心を有するユーザー側有識者に、10月に公表される有識者の意見に対するコメントを求め、

彼らの業界が高等教育から必要とするものについて意見を求めた。各ユーザー側有識者からの意見は、08年12月に公表される。

・同時に、全国学生フォーラム(※)とも連携しつつ、学生からの意見も求める。

## (2) オンラインでの高等教育

・元共同情報システム委員会議長(Chair of the Joint Information Systems Committee)のロン・クック卿(Sir Ron Cooke)に、英国がオンライン高等教育で世界有数の拠点であるためにどうすればよいか助言及び提言を求めた。クック卿からの提言は、他の分野とともに08年10月に公表されることとされた。

## 5. 関連資料

### ○イノベーション・大学・職業技能省(DIUS)

The Debate on the Future of Higher Education

<http://www.dius.gov.uk/policy/HE-debate.html>

### ○イングランド高等教育財政会議(HEFCE)

HEFCE contributes to debate on the future of higher education (08年11月13日)

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2008/debate.htm>

### ○英国大学協会(UUK)

Universities UK contributes to DIUS HE debate (08年11月12日)

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/UniversitiesUKcontributesDIUSHEdebate.aspx>

(了)